

南魚理センだより

令和6年5月24日発行

No. 2

南魚沼市学習指導センター

理科教育部

〒946-6680 南魚沼市六日町 865
(学習指導センター内)

TEL 025(773)6702

FAX 025(773)6703

E-mail risen@minamiuonuma.ed.jp

＜専門員の紹介＞

「専門員」とは、南魚沼地域の自然（生物・地学等）に関する専門的な知識・技能等を有し、理セン主催の研修会の講師を務めたり、管内小・中学校の生活科や理科、総合的な学習の時間の授業において、専門的な助言や指導をしたりすることができる専門スタッフのことです。

＜専門員派遣の手続き＞

- ① 専門員の派遣を希望する学校は、所定の「専門員派遣伺い」を理センに提出してください。理センが専門員を決定し、派遣する専門員の名前と連絡先を当該校に伝えます。
- ② 学校は派遣される専門員と連絡を取り、事前打ち合わせを含む日程を調整した後に、所定の「専門員派遣申請」を理センに提出してください。
- ③ 専門員が派遣された後、学校は理センへ所定の「専門員派遣事後報告」を提出してください。

*理科主任会で説明した内容です。提出はメール添付だと助かります。



林 正栄先生

南魚沼市在住 元中学校教員
得意分野 地学分野

毎年度、小6の地層学習をお手伝いしています。地層学習は、実際に地層を観察し、礫・砂・泥層を触ったり、採取したりして、そのつくりやでき方に気づき、昔からの大地の営みを理解する学習です。観察・活動に適した地層が少なくなっている中、後山・辻又川沿い（旧大和町）は、学習のねらいを満たしてくれるとても良いフィールドです。また、バスの乗降時の安全やバスの待機場所が確保されているなど、安全面や便利さにおいてもすぐれたフィールドです。この地域で採集した化石も紹介し、地層の成り立ちについて考察を深めます。こうした学習が、中1の地学学習（火成岩等）につながります。今年も、後山・辻又川沿いの地層学習に多くの学校の参加を期待しています。なお、中学校の地学学習の相談、支援にもぜひ活用ください。今年度も、宜しくお願いします。



小林 民弥先生

南魚沼市在住 元小学校教員
得意分野 生物・地学分野

初めてのものに会える喜び ～カメラの力を借りて～

健康のために歩きたいのですが、色々とやりたいこと・やるべきことが沢山あり、時間がとれません。それでやりたいことの一つである野鳥等の写真を撮りながら歩いています。歩いていけば初めて出会う野鳥にも巡り合えます。この冬は雪が少なく歩きやすく魚野川の土手道、八海橋を中心に歩きましたが、カモ類を見ることがあまりありませんでした。

3月8日、土手道から久しぶりのカモ類を見つけ撮影、画像を拡大して見ると初めての野鳥、名前は分かりません。図鑑で調べたら「カワアイサ」でした。カワアイサが掲載されているページを開くのも初めて、初めて尽くしでした。図鑑には「ウミアイサ」もありました。カメラの力を借りてと言えばシジュウカラを撮っていたら少し違う鳥がいました。どちらも落ち着きなく動き回るので、撮って見たら「エナガ」でした。これも初めて見る鳥でした。「タシギ」「タゲリ」などは一度見た切りで2回目はまだありません。歩いていけばまた出会えることと思います。そして地層学習で六年生と出会えることを楽しみにしています。





深澤 和基 先生

南魚沼市在住 元高等学校教員

得意分野 森や川、池に棲む生物の観察指導
スノーシューでの雪上トレッキング

2月の末には雪がほとんどなくなり、このまま春を迎えるのかと思っていたところ、3月は寒の戻りがあり、桜の開花は昨年より遅くなりました。ツバメも渡ってくるのが昨年より10日ほど遅く、春は遅いのかと思っていますと、4月は暑いぐらいの日が続き、あっという間に桜もカタクリも満開を迎え、タムシバも咲き始めています。季節は徐々に進んでくれないと、変化が急すぎて生態系にダメージがでないか心配です。魚沼地方の小中学校は学校の周りに豊かな自然が残っており、教科書を使って教室の中で学ぶだけで終わらず、実際の生き物を見て、触れて体感することができます。生物多様性が重要なこと、持続可能な社会とはどのようなことなのかを学ぶには、自分が住む地域の状況を知ることが不可欠です。地域の自然や文化をどのように教材化していくかについて、屋外の活動に限らず、私たち南魚沼理科センターの専門員を活用していただきたいと思います。



南雲 敏夫 先生

十日町市在住

得意分野 天体観測 自然観察全般

不思議な形の植物

ウラシマソウ、この名前を聞いたら浦島太郎を連想します。浦島太郎が釣り糸を垂らしている様子に似ています。それ

にしても不思議な不気味な形の花です。

自然界にはこのように不思議な形態の植物や生き物が数多く生息しています。それらを観察するのはとても面白いものです。

なぜこのような形になったのか自由研究の課題にもつながるのではないのでしょうか・・・。

自由研究は夏休みだけでなく、春から計画的に進めても楽しいといつも思っていますが、飽きないテーマでやれば、ずーっと続けられます。徹底してやる事をお薦めします。



阿部 英正 先生

南魚沼市在住 元小学校教員

得意分野 里山自然観察 森林の学習
草花遊び ネイチャークラブ

「あれっ！花が終わったら花びらが緑色に？何で散らないの？」
野山には不思議がいっぱいです。ショウジョウバカマは南魚沼で春を告げる花。根元から常緑の葉を丸く広げて雪の布団の下でスタン

バイ！雪消えと共にピンクの花を下向きに咲かせながら花茎を伸ばし、ハナアブやハナバチ、チョウを呼びます。不思議なことに花が終わっても花びらは散ることなく、ピンク→クリーム色→緑色と変色していきます。『花びらも雄しべ・雌しべも葉から進化してきたもの』と言われますが、まるで先祖返りのよう。その後、花茎をぐんぐん伸ばし種子が熟す梅雨頃になると50～80cmにも。下を向いていた花は、上を向き緑のお皿となって糸くずのような種子を山盛り載せて風を待ちます。少しでも効果的に種を撒き散らそうという訳です。しかし発芽しても実生が生き残るのはごく稀。そこで最後の手段です。常緑の葉は3年分も重なり合い、地面に着いた古い葉先に小さな赤ちゃん苗を作ることがあります。まだ虫の少ない早春、種子で子孫が残せない場合に備えたクローン作戦で、まるで孫悟空の分身の術のよう。可憐な花に秘められたあの手この手の生き残りをかけた知恵には驚かされます。一緒に野山に出て探ってみませんか？

